

科目	数学Ⅱ	学年	第2学年	開講	通年	必修	4 単位
----	-----	----	------	----	----	----	------

学習目標	三角比、データの分析、式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。
------	---

教科書：「最新 数学Ⅱ」数研出版
 副教材：「3ROUND 数学Ⅱ+B」数研出版

学習計画及び評価方法

- a 知識技能
- b 思考・判断・表現
- c 主体的に学習に取り組む態度

学期	項目	単元	学習内容	学習のねらい	月	考查	評価の観点		
							a	b	c
前期	三角比	正弦定理・余弦定理	正弦定理	図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを利用して問題を解決したりする力などを培う。	4		○		○
			余弦定理				○		○
			三角形の面積				○	○	
			図形の計量				○	○	○
	データの分析	データの分析	データの整理	データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりする力などを養う。	5		○		○
			データの代表値				○	○	○
			データの散らばり				○	○	○
			データの相関				○	○	○
			相関係数				○	○	○
			分割表				○		○
			仮説検定の考え				○	○	○
	式と証明	式と証明	整式の除法と因数分解	・ 整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。	6		○		
			二項定理				○	○	○
			整式の割り算、分数式				○	○	
			恒等式、等式の証明				○	○	○
複素数と方程式	複素数と方程式	複素数	・ 方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	7		○			
		2次方程式の解と判別式				○			
		解と係数の関係				○	○		
		剰余の定理と因数定理				○	○		
		高次方程式の解法			○	○			
前期 授業評価									
後期	図形と方程式	点と直線	直線上の点	・ 座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	9		○		
			平面上の点				○		
			直線の方程式				○	○	
			2直線の平行と垂直				○	○	
	円、軌跡と領域	円、軌跡と領域	円の方程式		10		○	○	
			円と直線				○	○	
			軌跡				○	○	○
			不等式と領域				○	○	○
	三角関数	三角関数	一般角、弧度法	・ 角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	12	1	○		
			三角関数				○		
			三角関数の性質				○	○	
			三角関数のグラフ				○	○	
三角関数を含む方程式、不等式			○				○	○	
加法定理		加法定理	加法定理		2		○	○	○
			三角関数の合成				○	○	○
							○	○	○
後期 授業評価									

評価の観点

- ・ 数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとしているかどうか。
- ・ 事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決できるかどうか。

評定の決め方

- 知識・技能：定期考查
- 思考・判断・表現：定期考查・レポート
- 主体的に学習に取り組む態度：ワークショップ型授業・レポート